



ブラジルの政策金利引き上げについて

ポイント1 政策金利を13.75%から14.25%へ引き上げ【図1】政策金利の推移

7月29日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場の大半の予想通り、政策金利を0.50%引き上げ、年率14.25%とすることを全会一致で決定しました。7会合連続の利上げとなりました。

同中銀は声明文の中で、今回の利上げは、マクロ経済見通しとインフレ予測、及び現状のリスクのバランスを勘案しての決定としました。

ポイント2 インフレ抑制姿勢を強める

度重なる利上げにもかかわらず、6月のインフレ率は8.89%と、同中銀が目標とする2.5%～6.5%を大きく上回る状況が続いています。

同中銀は、2017年のインフレ目標のレンジを3.0%～6.0%に縮小することを既に決定しています。

また、同中銀のトンビニ総裁は2016年末までにインフレ率を目標レンジの中央値である4.5%に引き下げように取り組むとし、インフレ抑制に向けた決意を改めて示していました。

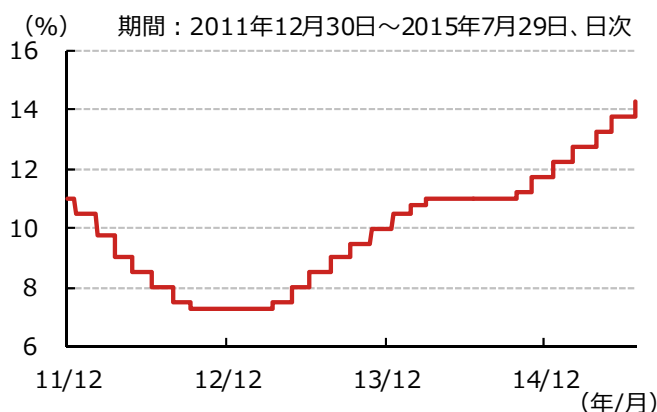
ポイント3 長期に渡り現状の金利水準維持を示した

7月22日（現地時間）に政府は2015年のプライマリーバランス（基礎的財政収支）の黒字目標を引き下げました。このような動きの中、市場ではインフレ上昇に対するリスク要因が加わったとの見方が広がっていました。

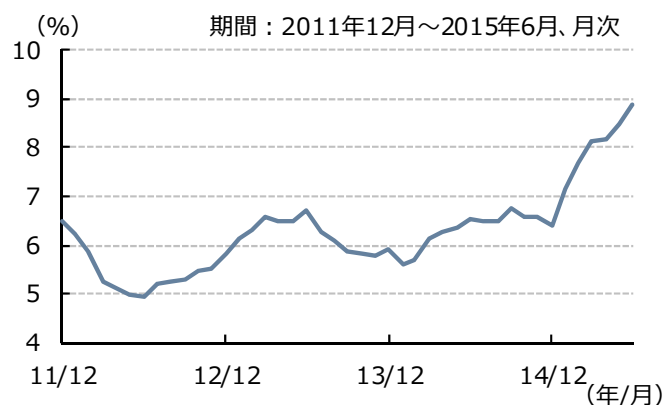
同中銀が公表した声明文では、インフレを抑制するために長期に渡り現状の金利水準を維持することが必要とし、インフレへの警戒感が示されました。

重要 イベント	2015年8月7日 拡大消費者物価指数（7月）
	2015年9月2日 金融政策発表

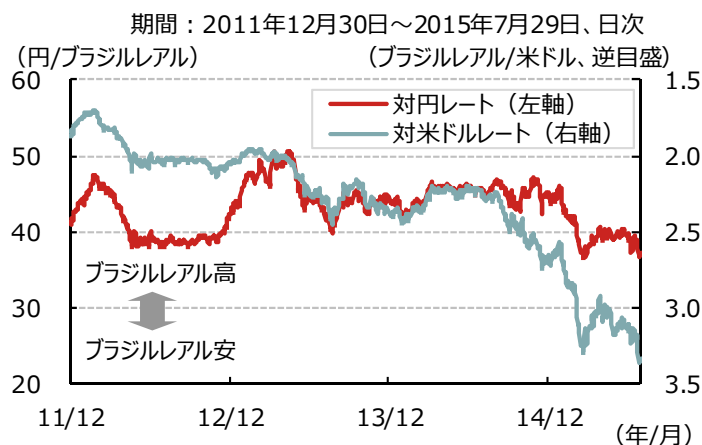
重要イベントは現地時間で記載しています。



【図2】拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移



【図3】為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成